

少人数教育の充実に向けた取組

【県北教育事務所】

学 校 名	福島市立庭坂小学校
学年・教科等	第2学年・国語科・算数科 第6学年・算数科

一人一人にたしかな力を身に付けさせるために

取組の内容

1 少人数教育の計画等

- 第2学年、第6学年とも少人数学級編制を行うことにより1学級の人数を少なくすることで、学力はもちろん、生徒指導においてもきめ細かな指導を推進する。
- 教科や指導内容に応じて、効果的な学習形態を工夫する。
- 予防的生徒指導の推進、充実を図る。

2 実践の概要

(1) 学習形態の工夫

第2学年の実践

◇ 国語科、算数科の主要2教科は少人数学級編制による学級担任が指導し、技能教科、生活科は2クラス合同でT・Tによる授業を実施している。国語科、算数科は少人数なので、担任も一人一人に十分目を配ることができ、きめ細かな指導を行うことができた。

また、技能教科においては、習得の程度に個人差が大きくなるので、2人の指導者が連携しながら全体指導と個別指導を組み合わせ、個に対応した学習活動を支援することで効果が上がっている。



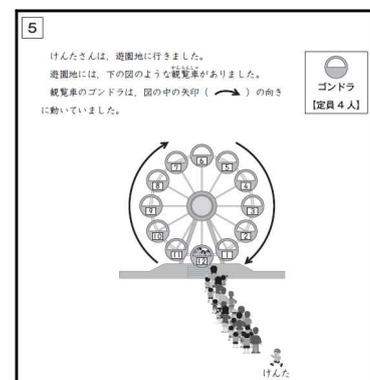
国語、算数は少人数学級で指導

第6学年の実践

◇ 4・5・6学年の算数科においては、主に単元後半の習熟・活用の段階をT・Tで行い、個人差や多様な課題解決の方法に対応している。

<具体例 6学年「速さ」>

平成23年度の全国学力・学習状況調査におけるB問題、ゴンドラの下降スピードについての説明をする問題では、(A)1人で考える児童、(B)複数の児童が話し合って答えを導き出そうとするグループ、(C)問題の意味がよく理解できずにさらに説明を求めている児童のグループに分け、(A)(B)をT1が指導し、(C)をT2が指導した。



23年度観覧車の問題

(A)(B)のグループについては、机間指導をしながら、子どもたちのつぶやきに対応したアドバイスをしたり、図に描いてみることを助言したり、速度の概念を確認することを指示したりして、考えを深めさせていった。

(C)は、「まだ」、や「も」といったことばを正確に読んでいないために、問題を誤って理解していたので、1問1答で、問題の内容を正確に確かめさせたところ、学習したことを活用して、正解を導くことができた。

それぞれの理解度に合わせて考えることができ、どの児童も問題を解決して、成就感と満足感を味わえる授業となった。



習熟段階をT・Tで指導

(2) 予防的生徒指導を推進

1学級の人数が少なくなることで、担任も一人一人の児童への配慮を十分に行う時間や、情報の収集、対応をすることができるため、児童一人一人が学級の中で存在感をもって学校生活を送ることができる。学期末毎に行っている学校生活へのアンケートでも、学校が楽しいと答える児童が多くなった。

成果と課題

- 学年T・Tや担任外教師を活用してのT・Tなど、学校内の人員を活用しながら、効果的な指導を工夫することで、児童の理解が進み、成就感をもつことが多くなり、学習意欲が高まるとともに、自尊感情もさらに高くなってきている。
- 本校で基礎学力定着の手立ての一つとして実施している学期毎の「漢字・計算ミニチャレンジテスト」をほぼ全員が1回で85%以上正答することができた。また、各教科での単元ごとのワークテストの平均が9割前後と、定着率を高めることができた。少人数によるきめ細かな指導の積み重ねの成果である。
- 学級内での生活を楽しく感じることで安心感につながり、互いに話し合い、互いに高め合おうとする態度をさらに養うことができた。
- 達成度が低かった各教科の各領域において、特に思考力、判断力、表現力の領域においても、細かく分析を加え、効果的な指導法を探りながら指導を進めていきたい。
- T・Tの活用が効果的ではあるが、指導時数や打合せ等の時間などの確保が難しい。行事や他の活動とのバランスを取りながら、計画的に進めていきたい。